

国語 第3学年 進行にそって、はんで話し合おう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語』（令和6年度版）第3学年下巻の話すこと・聞くことの単元。同社の年間指導計画例では10月に置かれている。東京書籍『新編 新しい国語』（令和6年度版）では、第3学年9月の「グループの合い言葉を決めよう」が同じA(1)オを扱う。だれに向けて本をすすめるかなど、話し合いの設定は使う教科書で確かめる。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、班の話し合いで、司会の進行に沿って目的と進め方を確かめ、出された意見の同じ所と違う所を比べてから、目的に一番合う考えに班の意見をまとめられる。司会をした子は、目的の確認から決まったことの確かめまでを、進行表を見ながら進められる。「同じところは」「ちがうところは」「目的に合うのは」という言い方を使い、多数決ではなく理由を比べて決める経験をすることが、この単元で目指す姿である。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(2)イ	イ 比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。
〔第3学年及び第4学年〕A話すこと・聞くこと(1)オ	オ 目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たしながら話し合い，互いの意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめること。
〔第3学年及び第4学年〕A話すこと・聞くこと(2)ウ	ウ 互いの考えを伝えるなどして，グループや学級全体で話し合う活動。
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(3)オ	オ 幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。
〔第3学年及び第4学年〕の目標(2)	(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをまとめることができるようにする。
〔第3学年及び第4学年〕の目標(3)	(3) 言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(4)	(4) 第2の各学年の内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」に関する指導については，意図的，計画的に指導する機会が得られるように，第1学年及び第2学年では年間35単位時間程度，第3学年及び第4学年では年間30単位時間程度，第5学年及び第6学年では年間25単位時間程度を配当すること。その際，音声言語のための教材を活用するなどして指導の効果を高めるよう工夫すること。

学習指導要領の項目	原文
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(3)	(3) 第2の内容の指導に当たっては、学校図書館などを目的をもって計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。その際、本などの種類や配置、探し方について指導するなど、児童が必要な本などを選ぶことができるよう配慮すること。なお、児童が読む図書については、人間形成のため偏りがないよう配慮して選定すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(1)	(1) 教材は、第2の各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

単元の目標

比較や分類の仕方を理解し使う（(2)イ）。目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる（A(1)オ）。言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、思いや考えを伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比較や分類の仕方を理解し使っている。((2)イ)	①「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(A(1)オ)	①積極的に、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめ、学習の見通しをもって、班で話し合っておすすめの一冊を決めることに取り組もうとしている。

単元の流れ

全8時間。光村図書出版『国語』（令和6年度版）の年間指導計画例（第3学年）で、この単元は10月、話すこと・聞くこと8時間。学習指導要領 第3の1(4)は、第3学年及び第4学年の話すこと・聞くことに年間30単位時間程度を配当するとしている。国語の標準授業時数は第3学年で年間245単位時間（学校教育法施行規則 別表第一）。配当は自校の年間指導計画に合わせる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○単元の目的（だれに、何のために一冊をすすめるか）を確かめ、班で話し合っておすすめの一冊を決める学習の見通しをもつ。 ○これまでの話し合いで困ったことを出し合う。	態①（観察・ノート）
	2	○教科書の話し合いの例を聞き、司会が何を言って話し合いを進めているかを見付ける。 ○話し合いの進め方（目的の確認→考えを出す→質問する→比べる→まとめる→確かめる）を「進行表」にまとめる。	
第2次	3	○学校図書館で、すすめたい本を一人一冊選び、すすめる理由を「おすすめカード」に書く。	
	4	○目的に合わせて本を比べる観点（読む人に合うか・内容・長さ・絵 など）を学級で決め、比べる表の書き方を確かめる。 ○練習の話題で、表に共通点と相違点を書き分ける。	知①（比べる表・ノート）
	5	○班で一回目の話し合いをする。司会の進行で、すすめたい本と理由を出し合い、質問し合う。 ○話し合いの記録を聞き返し、進め方でよかった所と困った所を確かめる。	知①（比べる表）
	6 （本時）	○班で二回目の話し合いをする。比べる表を使って共通点と相違点を確かめ、目的に合う一冊にまとめる。	思①（観察・比べる表・話し合いメモ）
第3次	7	○班ごとに、決めた一冊と決めた理由を発表する。 ○ほかの班の話し合いの進め方のよい所を見付ける。	思①（発表・記録）
	8	○司会を交代し、短い話題で話し合って、身に付けた進め方を使う。 ○単元を振り返り、話し合いの進め方で大事なことをまとめる。	態①（振り返り）

本時の案

本時の目標：おすすめの一冊を決める話し合いで、目的と進め方を確かめ、互いの意見の共通点や相違点に着目して、班の考えを一つにまとめられる。(A(1)オ)

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前時の話し合いで困ったことを振り返る。 ○「一回目の話し合いで、なかなか決まらなかったのはどうしてでしたか」 【めあて】同じところとちがうところをくらべて、目的に合う一冊を決めよう。 2 話し合いの目的と進め方を、進行表で確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・みんな自分の本がいいと言って、決まらなかった。 ・理由がばらばらで、比べられなかった。 ・最後は多数決になってしまった。	・前時の記録（録音や先生のメモ）から、決まらなかった場面を一つ取り上げて示す。 ・だれに、何のためにすすめるかという目的を、黒板の一番上に書いておく。 ・司会の子には、進行表の言葉を前もって確かめさせておく。
展開 (分)	3 班で話し合う。 (1) 司会が、目的と進め方を確かめる。 (2) 一人ずつ、すすめたい本と理由を言い、聞く人は質問する。 ○「その本は、目的に合っていますか。どの理由からそう言えますか」 (3) 比べる表に書き込みながら、本と本の同じところとちがうところを確かめる。 ○「どの本にも共通しているのは、どんなところですか。ちがうのは、どんなところですか」 (4) 目的に照らして、一冊にまとめる。 ○「目的に一番合っているのはどれですか。ちがう意見のよいところは、どう生かせますか」 4 まとまった班の話し合いの進め方を、全体で聞き合う。 ○「この班は、どうやって一冊に決めましたか」 〈予想される児童の反応〉 ・どの本も、絵が多くて読みやすい所は同じだ。 ・～は短くて、読む人が最後まで読めそう。 ・～は話がおもしろいけれど、長いところがちがう。 ・目的は「～」だから、～の方が合っていると思う。 ・～さんの本の、楽しく読めるという理由は、決めた本にも当てはまる。 ・同じところとちがうところを比べてから決めた。 ・目的に戻って考えたら、決まった。	・考えを出す前に、司会が目的を読み上げることを進行表に入れておく。 ・比べる表は、横に本の名前、縦に比べる観点を書く形にし、班に一枚配る。 ・自分の本を推すことだけを言う子には、「ほかの本と比べると、どこが同じで、どこがちがうか」と問い返す。 ・司会が困っている班には、先生が進行表の次の言葉を指さして示す。 ・話すのが苦手な子には、おすすめカードを読み上げてから話してよいことにする。 ・多数決は、共通点と相違点を確認した後でも決まらない時だけにする。 ・先生は班を回り、共通点・相違点を言葉にした発言を記録する。 ◎思① 互いの意見の共通点や相違点に着目して、目的に合う一冊に考えをまとめている。(観察・比べる表・話し合いメモ)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ (分)	5 本時の学習を振り返る。 ○「一冊に決めるために役に立ったのは、どんな話し方でしたか」 【まとめ】目的をたしかめて、本の同じところとちがうところを比べると、みんながなっとくして一さつに決められる。 6 次時は、決めた一冊と理由を発表することを知る。 〈予想される児童の反応〉 ・「同じところは」「ちがうところは」と比べたら決めやすかった。 ・司会が目的を言ってくれたので、話がそれなかった。	・振り返りは「話し合いで使った言葉」「司会や友達の進め方でよかったこと」の二つで書かせる。 ・決まらなかった班は、何が決まってい何が決まっていないかを確認、次時の始めに話し合いの残りをする時間を取る。

板書の構造（縦書き・右から左へ）

上段左に日付・単元名・めあて。上段中央に話し合いの目的（だれに、何のためにすすめるか）。上段右に進行表（目的の確認→考えを出す→質問する→比べる→まとめる→確かめる）。中段に比べる表の拡大版（横に本、縦に観点）を貼り、全体で聞き合った班の表を写す。共通点は同じ色、相違点は別の色で囲む。下段左に司会の言葉と参加する人の言葉（「～さんと同じで」「～ところがちがって」「目的に合うのは」）。下段右にまとめと振り返りの観点。

つまずきやすい所と手当て

つまずきやすい所は五つ。一つ目、自分の本のよさだけを言い合って決まらない。手当ては、目的を黒板の一番上に書き、意見を言う前に司会が目的を読み上げる順を進行表に入れること（A(1)オの「目的や進め方を確認し」）。二つ目、何で比べればよいか見当がつかず、好き嫌いで比べる。手当ては、読む人に合うか・内容・長さ・絵などの観点を学級で決め、表の縦に書くこと（(2)イの「比較や分類の仕方」）。三つ目、司会が進行表を読むだけで、意見をまとめられない。手当ては、まとめる時の司会の言葉（「同じところは～ですね」「目的に合うのは～ですね」）を進行表に入れ、第4時の練習の話題で一度試すこと。四つ目、すぐに多数決にする。手当ては、多数決は共通点と相違点を確認した後でも決まらない時だけ、と約束しておくこと（A(1)オの「共通点や相違点に着目して、考えをまとめる」）。五つ目、話す子が偏る。手当ては、一人ずつ順に言う時間を進行表に入れ、おすすめカードを読み上げてから話してよいことにすること。

プリントの案

進行表（司会用）

上から「目的の確認」「考えを出す（一人ずつ）」「質問する」「比べる（同じところ・ちがうところ）」「まとめる」「決まったことを確かめる」の六つの段。各段に司会が言う言葉を書き、終わった段に印を付ける欄を付ける。A(1)オの「目的や進め方を確認し」に合わせた。

おすすめカード

本の題名と作者、すすめる理由（目的に合うわけ）を二つまで書く枠、話し合いで言われた質問をメモする枠。理由の書き出しの例として「～だから、読む人に合っている」を欄外に示す。

比べる表

横に班で出た本の題名、縦に学級で決めた比べる観点（読む人に合うか・内容・長さ・絵 など）を並べた表。下に「どの本にも共通していること」「ちがうこと」「目的に一番合う本とそのわけ」の三つの欄。(2)イの「比較や分類の仕方」に合わせた。

振り返りカード

「話し合いで使った言葉」「司会や友達の進め方でよかったこと」「次の話し合いで使いたい進め方」の三つの欄。単元を通して同じカードに書き足し、第8時に見返す。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価規準の文末と3観点の形（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>）／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第3学年245）。e-Gov法令検索（<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>）／光村図書出版『国語』（令和6年度版）年間指導計画例（第3学年）。単元名・教材名・時期（10月）・配当時数（話すこと・聞くこと8時間）・指導目標の出典（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/7ff6b471-db8d-470a-968a-a9899624022a/368）／光村図書出版 小学校国語 年間指導計画の一覧ページ（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/keikaku>）／東京書籍『新編 新しい国語』（令和6年度版）第3学年 単元一覧。「グループの合い言葉を決めよう」（9月・7時間・A(1)オ）の出典（https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_3_202503.docx）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ



AI三重